



関節鏡手術が開始になります

当院の手術室に関節鏡が導入されました。

現在、上肢関節鏡手術の早期開始に努めております。今月号は、『関節鏡手術』について特集致します。

関節鏡手術とは？

関節鏡手術は、直径数ミリの内視鏡を使って、関節内や関節外の病変を小さなキズで検査したり、治療したりする手術です。関節鏡を使った手術の代表的なものとして、手根管症候群にたいする鏡視下手根管開放術というものがあります。手根管症候群は、中年の女性に多く発生する神経の病気で、手のしびれや痛み、感覚の麻痺を発生し、ひどくなると親指の筋肉がなくなって物がつかみにくくなります。薬で治らないものが手術の対象となります。

どのような手術？

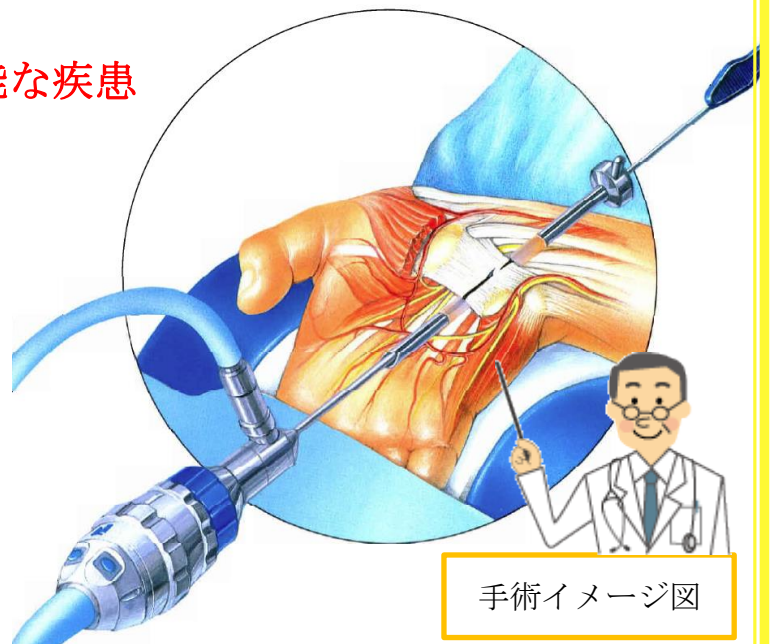
従来の手術法では手のひらに数センチの皮膚切開が必要でしたが、鏡視下手根管開放術では数ミリの小さなキズを2箇所あけるだけで手術が可能となります。

また、手根管症候群は透析患者さんにも多く発生しますが、シャントに影響を与えることなく手術することが可能です。

その他関節鏡で診断・治療が可能な疾患

- 橈骨遠位端骨折などの関節内骨折
- 手関節内靭帯の損傷
- 関節内遊離体
- 滑膜炎
- 野球肘
- 外側上顆炎

などに対する診断や治療に威力を発揮します。



手術イメージ図